江戸時代の「公園」地



『新編江戸名所図誌 前編 巻之四』　請求番号：CI−120

上野公園が置かれた江戸時代の東叡山寛永寺の様子。17世紀半ば寛永の末頃には、桜の名所として庶民の人気を集めていました。

のちに「公園」となる江戸の行楽地は、①広小路、社寺境内地、河岸、空地などの日常の散策地、②市街中心地から１、２里（約４～８km）にある飛鳥山、御殿山、隅田川堤などの八代将軍吉宗が花木を植えて庶民に開放した公設の名所、③往復５、６里（約20 ～ 24km）程度の名所、古積、社寺などの郊外の散策地などにおおよそ分類されます。

明治６年に開設された「公園」は、日常の散策範囲か、それより少し足を延ばす範囲に位置しており、アクセスもよかったといえます。